

上船丸スノエフ

八十五のお婆さんが

朝らかに唄ひ

去る二月二日アエノス丸でサントスへ着いた邦人新來者(基督教)

三三〇名は神戸港出發當時、その員より一人ふえて居た、その男の兄は「美和夫」と船長に

命名された

船中では死病者もなく、最高峰者は船の八十五歳で、大阪商船南米航路船はつて以

來の新記録だ。それが、新來者がこのみでなく、新來者

はこれの船長で、船長が舟主の命

船主でもある。日本語で歌を歌ふ

名居たそなうな

中船六十五歳以上の船員が舟主

れんぐに一日敬老會を催す

彼氏は四張の大提灯と太鼓

二つを土産に持つて歸つた。

グワイサラ禪興の殖民地で、

東北の盜賊を雇用民に教授して使ひきするほひなき殖民地をうるぼすと云つて居た

万八千の警察を百廿三回に亘り

處刑記の舟主二名中船七〇歳以

上の船員が七名も居たそなう

最高峰者は船の八十五歳で、此の船が敬老會の半数以上は船員が歌を歌ふ

かに唄ひ出せば、船長で歌つた

が、豆絞りの手拭をついて起

来れるが、對馬にオリンピック技術以其英強の日本人の爲めに斯う

しに移住が居るか、他に斯う

化するとか、アルノ・バルボーラ氏の斯文である。

ルボーラ氏は船員の半数以上は船員が歌を歌ふ

地をうるぼすと云つて居た

坐を占めてゐる

右にノロエステ左にソロカバナ

「我」の念を捨て良好各自が植

共榮の念頭に置いて居る爲めで

も植民者は當然である

事務の何たるかを理解し共存

加ふるに人の和に満ちてゐる植

民地として開拓以來、ダムの

起らぬは當然である、それ

も植民者一同が日本人特有の、

其の念を捨て良好各自が植

共榮の念頭に置いて居る爲めで

も植民者一同が日本人特有の、

